

魚を増やす

イイダコの卵を放流（2022）



近年、イイダコの漁獲量が激減しており、資源の回復が急務となっています。

（イイダコ釣りや漁獲量の情報は、水産課 Web ページ「イイダコ釣りを楽しまれる皆様へ」

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/suisan/yugyo/rule/w88u03180801164742.html>

をご覧ください。）

水産試験場では、産卵期直前の2月に漁獲された抱卵イイダコを集め、水槽内に抱卵イイダコとアカニシの貝殻を入れて飼育し、貝殻の中に産卵したことを確認（5月初旬）しました。産卵された貝殻には親イイダコが閉じこもり、付きっきりで卵のお世話をします。

○抱卵イイダコの飼育

	
飼育水槽	産卵後は貝殻に閉じこもっている

令和4年5月10日、中讃地区底曳網協議会の皆さまの協力を得て、親イイダコと卵が入ったアカニシの貝殻410個を、イイダコ漁が盛んな海域の近くに放流しました。

親イイダコは約300粒の卵を産むとのことですので、約12万粒の卵が放流されたことになります。

○放流の様子



玉ねぎ袋に小分けして運搬



漁業者も放流に参加

このまま海底ですくすくと成長し、元気な稚イイダコとなって資源に加入してくれることを期待しています。

(文責 主席研究員 中山博志)